



「Futmesa Japan(日本テーブルボタンサッカー協会)」会長

# ハーレー・田中硬一さん

(ブラジル出身)



### 「フットメザ」から友達をつくろう

3年後の2018年に、川崎で世界選手権が開催されることになった※「フットメザ」。

日本ではあまり聞き馴染みのないものですが、ブラジルでは競技人口が10万人を超える卓上のサッカーゲームです。

今年の1月から毎月川崎市国際交流センターで講習会を開き、日本人にフットメザの魅力を伝えているハーレー・田中硬一さんにお話をうかがいました。

### 「フットメザ」の魅力についてお聞かせください。

老若男女問わず、みんなが一緒に楽しむことができるのが一番の魅力です。誰でも簡単にできますが、実はとても奥が深いゲームです。フットメザでは、プレーヤーひとりひとりが自分のチームの選手であり監督なので、フィールド全体を見ながらゲームの流れを考えることとなります。また、集中力を必要としますので、精神的にとっても鍛えられます。



▲ポルトガル語講座の子どもにも大人気

### ブラジルでは子どもの頃からよくフットメザで遊ぶのですか？

みんなよく遊んでいますね。私が子どもの頃は、床にフィールドを描いてゲームをしていました。自分たちの想像力を広げて楽しむのです。フットメザ用のボタンも売られていますが、それぞれがアレンジしてオリジナルのものを作ったりしていました。今使っているフィールド(フットメザの台)も、すべて自分で手作りしました。

### 「フットメザ」を通してブラ

### ジル人と日本人の違いを感じることはありますか？

ブラジル人はオープンで、すぐに子どもと大人と一緒にコミュニケーションをとりますが、日本人は一緒に輪に入るまでかなり時間がかかりますね。私は日本の文化もよく理解しているので、どちらの気持ちも分かります。



▲選手がわりのフットメザ「ボタン」

### 日本の文化をよくご存知ですね。

ブラジルにいる時から日本人が多く住む地域に暮らしていたので、小さいころから相撲や野球、運動会など多くの日本の文化に触れていましたし、日本語の学校にも通っていました。来日後空手を始めましたが、礼儀作法やきめ細かい日本の教育は世界に誇れるものだと思います。

### 今夏、ブラジルでオリンピックが開催されますね？

南米で初めての開催ですし、とてもうれしい楽しみです。ただ、ブラジル国内には改善すべき問題がまだあるので、国民の生活も大切にされたうえで、みんなが楽しく盛り上がる環境の中でのオリンピックになればと思います。

### フットメザを通して、国際交流への思いをお聞かせください。

子どもも大人も国籍も関係なく、たくさんコミュニケーションをとりながら楽しんでほしいと思っています。「フットメザから友達を作ろう!」が私の強い思いです。日本とブラジル両方の文化を知っているからこそ、日本にブラジルの文化を伝えていきたいと思っています。是非、たくさんの方に参加していただきたいです。

ブラジルと日本の文化を理解し、大切にしたいハーレーさん。その熱い思いで、3年後の世界選手権まで「フットメザ」の大きな輪を広げてほしいです。また、ハーレーさんの大きな思いで川崎にも大輪が咲くと信じています。

(取材・文:編集ボランティア 相沢明子)

#### ※「フットメザ」とは？

正式名称は「Futebol de Mesa (机のサッカー)」で、ブラジルで生まれたサッカーゲーム。台上のフィールドで、選手かわりに「ボタン」と呼ばれる円盤を弾いてボールを動かし、ゴールをめざす。ルールはグラウンドで行われるサッカーとほとんど同じで、プレーは通常1対1で行う。

「Futmesa Japan」HP:

<http://www.futmesa.jp/>



▲2013年世界大会(ブラジル・サンパウロ)の様子